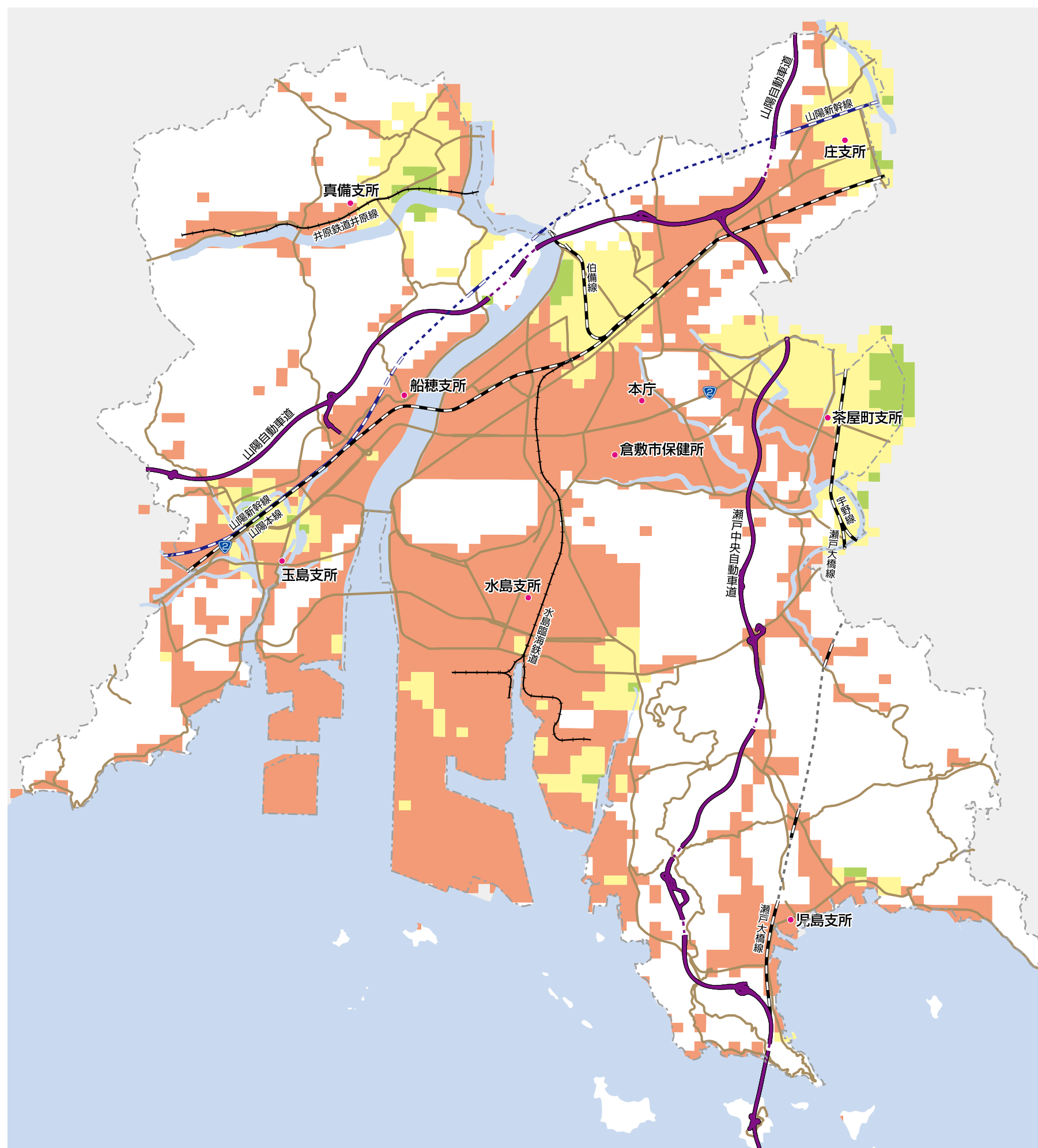


南海トラフ巨大地震による液状化危険度分布図



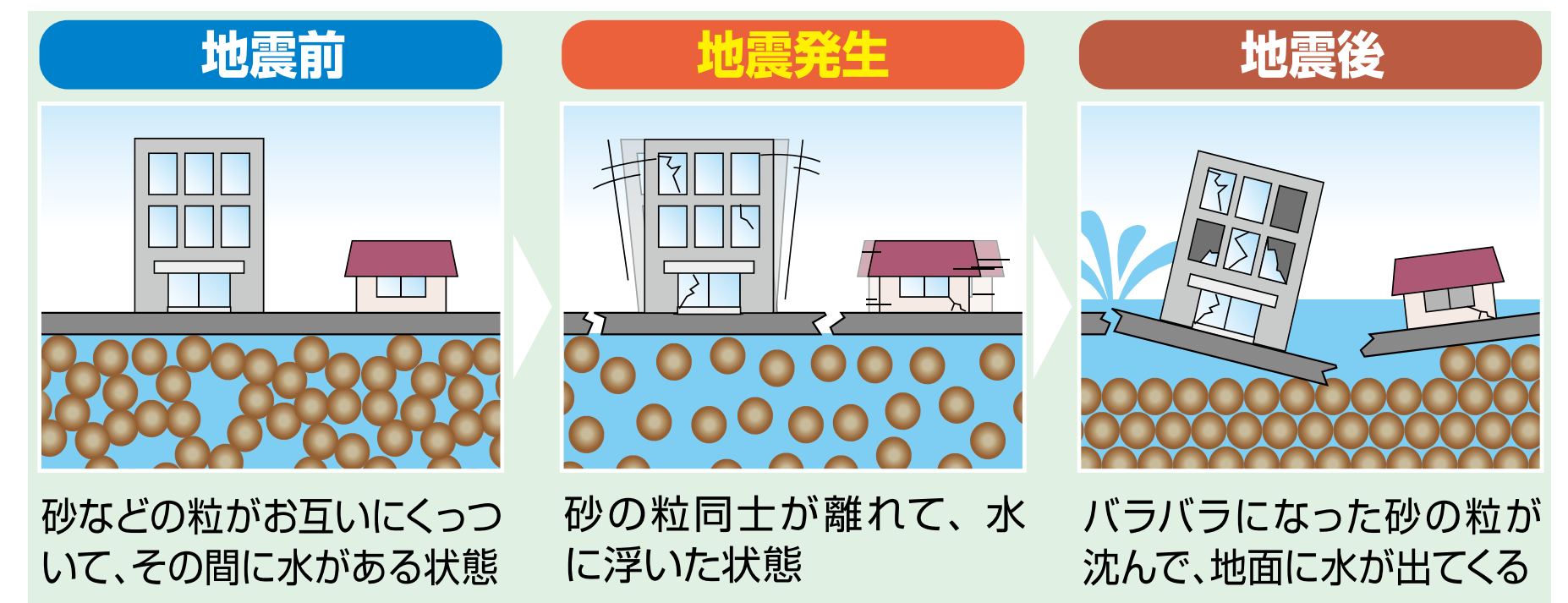
凡例	液状化危険度
高速道路	危険度は極めて高い (15 < PL値)
主要幹線道路	危険度は高い (5 < PL値 ≤ 15)
鉄道	危険度は低い (0 < PL値 ≤ 5)
私鉄	

※この液状化危険度分布図は、岡山県が平成25年2月に公表した「南海トラフ巨大地震（マグニチュード9.0）」が発生した場合の液状化危険度を示したものです。

解説

南海トラフ巨大地震が発生した場合、市の広い範囲が、「液状化の危険度は極めて高い」ことが想定されています。

液状化とは、地震の揺れによって地盤が一時的に液体のようになってしまう現象です。この現象により、地上の建物が倒れる、道路が陥没する、下水道のマンホールが浮き上がるなどの被害が発生します。



写真提供:財団法人消防科学総合センター

このような液状化現象は、どこにでも起こり得るものですが、特に、河川沿いの土地や埋立地など、地下水位が高い土地で発生する可能性が高いと言われています。

このような液状化の発生は、ボーリング調査資料などで算出された液状化可能性指数（PL値と呼ばれ、値が高いほど液状化する危険性が高い）で知ることができます。

豆知識 「液状化で家が少しでも傾くとどうなるの？」

家の建物自体に直接的な被害がなくとも、液状化による沈下の傾きは重大です。床面の傾斜は住む人の健康被害を誘発するケースがあります。（社）日本建築構造技術者協会の調べでは、たった0.2度の傾斜でも違和感を感じ、0.5度以上の傾きで平衡感覚（三半規管）に障害が発生し、めまいや吐き気を起こすなどの報告があります。